

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401228		
法人名	医療法人 有心会		
事業所名	グループホーム 南風		
所在地	〒859-2202 長崎県南島原市有家町山川337 (電話)0957-82-3956 (FAX)0957-82-3954		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年1月15日	評価確定日	平成21年2月10日

【情報提供票より】(H20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13 年 9 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
Aユニット職員数	15 人 常勤 10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.0 人
Bユニット職員数	17 人 常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 5.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	400円/日		
その他経費	実費(理美容・オムツ・受診代)、テレビ・電気アンカ使用料一日50円、電気毛布使用料一日100円		
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 833 円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	2 名
年齢	平均 87 歳	最低 74 歳	最高 106 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田循環器科内科・まつしま歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体に診療所を持つ当グループホームは、開設当初から医療と介護の連携に力を入れ、関連施設の医療職とホームの職員を含めたチーム体制でターミナルケアまで実施可能な体制が整っている。入居者や家族の多様化するニーズに対応するため、細かな情報を取り入れ、入居者一人一人へ集団ケアでなく個別のケアの実施を行っている。毎日3回、カンファレンスを行い、職員の小さな気づきも全体での共有を図ることで、状態変化の早期発見に繋がっている。ホーム内は各ユニットに掘りこたつが設けられており、昼食に鍋料理を取り入れるなど、家庭的な雰囲気溢れ、健康管理が徹底しているだけでなく入居者の住まいとしての工夫も窺える。今後も地域に根ざしたホームとして様々なニーズに対応すると共に更なる質の向上が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘された3つの項目は改善に向けて早期に計画・実施され全て改善された。具体的には、同業者との交流する機会については南島原市ケア研究会に加入後、情報交換や相互訪問が実現し今後もさらなる質の向上に期待ができる。災害対策については、火災だけでなく地震や夜間など様々な状況下での訓練を実施している。居室についても、家族と協力し馴染みのものを用意してもらい、より入居前の環境を大切に工夫を行った。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の自己評価を参考にし、職員一人ひとりに現在の状況を踏まえて自己評価票に記入してもらう方法で取り組まれた。その後、話し合い、介護主任がまとめを行う過程において、日頃の業務を見直す良い機会となり、職員の意識向上・レベルアップに繋がっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、開催されている運営推進会議では地域の代表者、市の職員、家族代表者などが参加し、日頃の報告だけに留まらず、質疑応答もある有意義な会議となっている。昨年11月の会議では、参加メンバーにホームでの消防訓練の様子を見てもらい、ホームでの日頃の生活や災害対策への取り組みを知ってもらう良い機会となった。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年に1回の敬老会では家族会を兼ねて開催し、大半の家族が参加している。意見箱への意見や苦情の投函はないが、直接職員へ要望を言われることもあり、それについては可能な限り答えていくという積極的に運営へ反映させていく取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近隣には中学校や保育園があり、行事の場で園児達との交流や中学生・高校生向けの福祉体験の受け入れなど地域との交流が盛んに行われていたり、年に1回の市民清掃には職員と入居者数名が参加し、地域住民としての役割を担っている。また、近所の方が訪問してホーム内でお茶を飲んだり、花を頂くなど日常的な交流がある。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐をもって明るく生活して頂く」という開設時に作られた理念は、地域密着型サービスとして地域の一員であることを大切に、支援をしていくという思いが込められ、事業所独自に作られたものである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所に大きく掲示するとともに、毎月のホーム便りにも掲載されている。理念に沿ったケアをしていくために、職員全員でそれまでの入居者一人ひとりの生きがいや楽しみごとを把握し、できる限りライフスタイルを変えない取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣には中学校や保育園があり、行事の場での園児達との交流や中学生・高校生の福祉体験の受け入れなど地域との交流が盛んに行われている。また、年に1回の市民清掃には職員と入居者数名が参加し、地域住民としての役割を担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価を参考にし、職員一人ひとりに現在の状況を踏まえて自己評価票に記入してもらう方法で取り組まれた。その後の話し合い、介護主任がまとめを行う過程において、日頃の業務を見直す良い機会となり、職員の意識向上・レベルアップに繋がっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている運営推進会議では、地域の代表者、市の職員、家族代表が参加し、日頃の報告だけに留まらず質疑応答もある有意義な会議となっている。昨年11月の会議では、参加メンバーにホームでの消防訓練の様子を見てもらい、ホームでの様子や災害対策への取り組みを知ってもらう良い機会となった。		

グループホーム 南風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員とは顔馴染みの関係であり、日頃から行き来が多い。事業所側から様々な質問をしたり、お互いに連絡していく中で地域の消防団とホームとの連携が実現するなど今後の取組みにも期待できる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料の請求書とともに家族へはホーム便り「笑顔」を渡している。1ヶ月間の入居者のホームでの様子は一人一人の表情・活動などがよくわかるカラー写真を豊富に取り入れ、年に1回職員の紹介も行っている。その中の空欄スペースには個々に入居者の状況を知らせるなど個別の対応もなされ、それぞれの家族へ細かい報告が行われている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回の敬老会では家族会を兼ねて開催し、大半の家族が参加している。意見箱への意見や苦情の投函はないが、直接職員へ要望を言われることもあり、それについては可能な限り応え、また積極的に運営に反映させる取り組みを行なっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にユニット間での職員の異動はなく固定している。夜勤専門職員以外の職員全員は家族にも紹介し、信頼関係を築く努力がなされている。新人職員の指導に関しては正規職員が一定期間ともにケアをしていくなどスキルの差を補う工夫も行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成20年4月より南島原市ケア研究会に加入し、研修の機会がさらに多くなった。研修にはほぼ職員全員が参加しており、勤務などの理由で欠席の職員に対しては翌日に内容を報告するなど共有を図っている。ケア研究会では役員もされており、研修内容に関しては各ホームも含めて意見を尋ねるなど、充実したものとなっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア研究会に加入後、研修先で他のホームの職員との情報交換ができたり、互いのホームを見学し合う相互訪問など、交流を通じてのネットワークづくりにより、今後はさらなる質の向上が期待できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス開始の流れとしては、相談・紹介の後、入居者や家族に見学をしてもらっている。見学が出来ない方に関しては職員が自宅を訪問するなど、徐々に馴染める工夫がなされている。また、家族の協力を重点に置き、今までの生活歴の情報はバックグラウンド情報として細かく聞き出している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者からは料理方法、旬の食材の食べ方、裁縫、花の名前、糞ぞうりの作り方など学ぶことも多く、職員と入居者がお互いに支えあう関係がある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃から入居者とのコミュニケーションを密にとることを大切に、入居者の細かな変化でも毎日3回のカンファレンスの中で情報を共有し、職員全員が思いや意向の把握に努めることができる体制が整っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>プランを作成する上で、入居者本人のニーズに合わせて、できることを伸ばす支援を重要視している。作成前に家族の要望をとり入れ、毎月のケア会議での話し合いのもとに作成されている。日中のケアプランの他に夜間ケアプランもあり、24時間起床から入眠までの一日を通した具体的なものになっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に1回のケア会議の中で入居者の現時点に沿った計画になっているか職員全員で検討がなされ、必要があればプランの変更を行っている。毎日の業務日誌には数時間毎に記録を行い、細かな情報も見逃さないようにし、常にプランに沿ったケアが確実にできるように、目標の記載も行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の診療所との医療連携を活用し、医師や診療所の看護師と協力し、ホーム内での点滴や医療処置などが可能である。医療と介護のチームでの体制が整っており、家族や入居者のニーズに合わせて負担のかからない支援ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を基本としているが、必要に応じて母体の診療所への変更も行っている。母体の診療所は、ホームからも数100mと近く、緊急時の対応や日頃の訪問健康チェックなど適切な医療を受けることができる体制である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに看取りの経験はないが、さまざまなニーズに対応するため、家族や医師との相談を行い、チーム全体で支援できる体制ができています。入居時に家族へ看取りに関する説明を行い、意思の確認後、同意を得ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけは、本人や家族がどう受け止めるかを考え、常に相手の立場を尊重して行っている。個人情報の管理に関しては、開放的な事務所になっているが、書類等が乱雑に置かれることなく整理が徹底していた。また、入居時にはホーム便りの写真の掲載も含めて個人情報の利用目的の同意をとられている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースに合わせ、その日の希望に応じて無理強いしない支援が行われている。外出願望のある入居者に対しては、職員の都合を優先することなくできる限り一緒に外出するなどの柔軟な支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事が楽しめるよう、入居時に嗜好を聞き入居後も残した物を記録するなど把握に努め、それに応じて別メニューで対応している。食事の準備や後片付けは、残存能力を生かして職員の見守りのもと入居者も行える支援がある。昼の献立には鍋をとり入れることもあり、職員と入居者が共に鍋を囲み大好評である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は、夏期は週に3回、冬期は週に2回としているが、希望やその日の体調、都合に合わせて別の日も対応可能である。やむをえず、入浴できない場合は清拭や陰部洗浄を行うなど清潔の保持に努めている。また季節に応じてゆず湯や菖蒲湯を取り入れるなど入浴が楽しめる工夫も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式などを活用し、今までの生活歴の把握を細かく行い記載している。入居者それぞれが食器の片付け、洗濯物たたみ、草とりなどの役割がある。車椅子使用の方にも手すりを拭いてもらうなどできる範囲での力を活かせる場面づくりの支援がある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	国道から近い場所にホームが位置しているため、外出の際は必ず職員が付き添っている。全員での外出の機会は少ないが体調や受診などの予定に合わせて、花見や足湯、ドライブなどへ出かけ、日頃でも週に1回程度のペースで近所の店などへ日常的に外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけておらず、出入り口には鈴をつけて外出傾向のある入居者の把握に努め、もしもの際に備えている。身体拘束防止の指導を受けているが、さらに細かい部分まで根拠に基づいたケアをしていくため、後日研修に担当職員が参加予定である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中だけでなく、夜間・地震・水害などさまざまな状況を想定した訓練が定期的に行われている。夜間訓練は、日頃と同じ状況設定で行い、職員2人がヘッドランプをつけながら行うなど徹底している。また、地域の消防団との協力体制も整っており、連携が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体の診療所の栄養士に作成してもらい、その後ホームでアレンジしている。なるべく薄味を心がけ、入居者の疾患に応じて調味料で調整をしている。食事中は介助が必要ない方でも必ず見守りを行い、誤嚥防止に努めている。水分摂取に関しては一日最低4回は促して、水分量を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・事務室を中心として、左右に2つのユニットが対称的に作られている。ガラス張りリビングまで見渡せるようになっており、入居者の様子が一目でわかる作りである。木造で天井も高く開放感にあふれている。また窓も大きく十分な光が射し込み、明るく落ち着ける雰囲気である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には島原半島の町名や島の名前がついている。居室は洋室で、全ての居室に洗面所とトイレが設置されている。家族と相談しながら入居者の馴染みのものを持ち込んでもらい、家庭の自室に近い環境づくりを心がけている。		